



# 2025年3月期第2四半期 決算説明会資料

2024.11.29

日本電子株式会社

# 世界の科学技術を支えるニッチトップ企業へ

▶ YOKOGUSHI ◀

## 経営理念

日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します

▶ YOKOGUSHI ◀

## ビジョン

### 「70年目の転進」

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し更なる高収益化を実現します

## 中期経営計画

### 「Evolving Growth Plan」

研究開発力、ものづくり力、サービス力のUPにより顧客満足度の向上を図ります

▶ YOKOGUSHI ◀

共創によるイノベーションを推進

# 成長ビジョン「70年目の転進」の考え方は不変

- 事業規模の拡大と高収益化を実現する



- 先端技術を支える総合ソリューションを提供

## ▶ YOKOGUSHI ◀



波長



TEM	SEM	SPM	EPM	XPS	AES	SIMS	μED	XRD	XRF	CM	OM	UV	Vis	IR	Ram	ESR	NMR	MS	ICP	GC	LC	TA
-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----	----	----	----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	----	----	----

DXプラットフォーム

理科学・計測機器

●	●		●	●	●		●		●							●	●	●				
---	---	--	---	---	---	--	---	--	---	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--	--	--

医用機器

														● (CA)								
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------	--	--	--	--	--	--	--	--

産業機器

● (SB/EB/ST/AM)																					
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

### Solutions



# 中期経営計画「Evolving Growth Plan」(FY2022-FY2024)

## 2010年度からの中期経営計画

### Step 1 (FY10-12)

#### 事業基盤の強化 CHALLENGE 5

- 経営構造改革  
人員削減等の構造改革、グループ企業再編
- 企業風土改革  
見える化、PDCA、市場からの改革
- 新興国市場深耕  
ブラジル、ロシア、インド、中国等に現地法人設立

### Step 2 (FY13-15)

#### 成長戦略へのシフト Dynamic Vision

- 製品開発力UP
- ものづくり力UP
- ブランド力UP
- YOKOGUSHI戦略本格始動
- 資本政策実施(公募 & Nikon連携)
- JRI連結子会社化

### Step 3 (FY16-18)

#### 成長戦略の具現化 Triangle Plan

- Speed  
ハイスループット機能の追求、開発スピードアップ
- Difference  
Only JEOL製品の投入、YOKOGUSHIの浸透
- Change  
アカデミアから民需へ、ハードからサービスへ

### Step 4 (FY19-21)

#### 成長の加速と次の打ち手 Triangle Plan 2022

- コアテクノロジー強化
- 成長市場への積極参入
- トータルソリューションの提供
- 必要な投資と収益性向上への取り組み

### Step 5 (FY22-24)

#### 事業規模の拡大と高収益化 Evolving Growth Plan

- YOKOGUSHI戦略の強化、発展
- 参入障壁の構築と収益性向上
- 次の打ち手の継続
- 事業支援の強化

## 連結売上高・営業利益の推移



# サマリー

## Evolving Growth Plan

成長ビジョン「70年目の転進」の施策を更に推進し、事業規模の拡大と高収益化を実現する

## 2024年度上期実績

売上、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は過去最高を更新

## 半導体市況

マルチビームマスク描画装置は先端半導体投資の回復遅れの影響継続  
シングルビームマスク描画装置は中国を中心に旺盛な需要が継続

## 2024年度事業見通し

売上高1,960億円、営業利益330億円、経常利益315億円、  
当期純利益235億円

## 中期経営計画 Evolving Growth Plan 取り組み

1. 参入障壁の構築と収益力向上
2. 成長マーケット（半導体、創薬、電池等）での事業拡大

## INDEX

1. 2025年3月期第2四半期実績および通期予想
2. 各事業の状況
  - 2-1. 理科学・計測機器事業
  - 2-2. 産業機器事業
  - 2-3. 医用機器事業
3. まとめ

## 1. 2025年3月期第2四半期実績および通期予想

---

# 2024年度第2四半期累計期間決算実績 (P/L)

- 上期の過去最高値を更新

連結数値 (P/L)

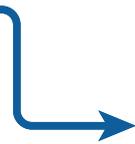
(単位：億円)

	23年度2Q 実績①	24年度2Q 実績②	前年比 ②-①
1 売上高	687	872	185
2 売上原価	357	441	85
3 (原価率)	(51.9%)	(50.6%)	(△1.3%)
4 売上総利益	330	431	101
5 販管費	195	211	17
6 研究開発費	53	61	9
7 販売費及び一般管理費合計	247	273	26
8 営業利益	83	158	75
9 営業外収益	20	7	△13
10 営業外費用	1	24	23
11 経常利益	102	141	39
12 特別利益	2	0	△2
13 特別損失	1	0	△1
14 税前当期純利益	102	141	39
15 法人税等	27	32	5
16 当期純利益	75	109	34
為替レート(1\$=)	¥141	¥152	
為替レート(1€=)	¥154	¥165	

## 営業利益増減要因分析 (対前年比)

(単位：億円)

(A) プラス要因	101
1. 数量増	72
2. 為替差(円安)	29
(B) マイナス要因	△26
1. 販売管理費増	△17
2. 研究開発費増	△9
(A)+(B)	75



## 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（第2四半期累計期間）

（単位：億円）

		22年度 2Q実績	23年度 2Q実績	24年度 2Q実績
全社	売上高	647	687	872
	営業利益	69	83	158
	経常利益	88	102	141
	当期純利益	72	75	109
理科学・計測機器事業	売上高	358	441	522
	営業利益	△1	37	40
産業機器事業	売上高	205	172	287
	営業利益	93	70	146
医用機器事業	売上高	85	74	64
	営業利益	3	5	4
全社	費用	26	29	32
為替レート(1\$=)		¥133	¥141	¥152
為替レート(1€=)		¥139	¥154	¥165

# 2024年度予想 (P/L)

■ 売上高1,960億円 / 営業利益330億円 / 経常利益315億円 / 当期純利益235億円

連結数値 (P/L)

(単位: 億円)

	23年度 通期実績 ①	24年度 通期予想 (24年5月時点)	24年度 通期予想 ② (24年11月時点)	前年比 ②-①
1 売上高	1,743	1,830	1,960	217
2 売上原価	951	972	1,055	104
3 (原価率)	(54.5%)	(53.1%)	(53.7%)	(△0.8%)
4 売上総利益	793	858	905	112
5 販管費	415	424	450	35
6 研究開発費	103	134	125	22
7 販売費及び一般管理費合計	518	558	575	57
8 営業利益	275	300	330	55
9 営業外収益	28	10	10	△18
10 営業外費用	3	5	25	22
11 経常利益	300	305	315	15
12 特別利益	2	2	2	0
13 特別損失	8	2	2	△6
14 税前当期純利益	295	305	318	23
15 法人税等	78	80	83	5
16 当期純利益	217	225	235	18
為替レート(1\$=)	¥ 144	¥ 145	¥ 147	
為替レート(1€=)	¥ 157	¥ 158	¥ 161	

## 営業利益増減要因分析 (対前年比)

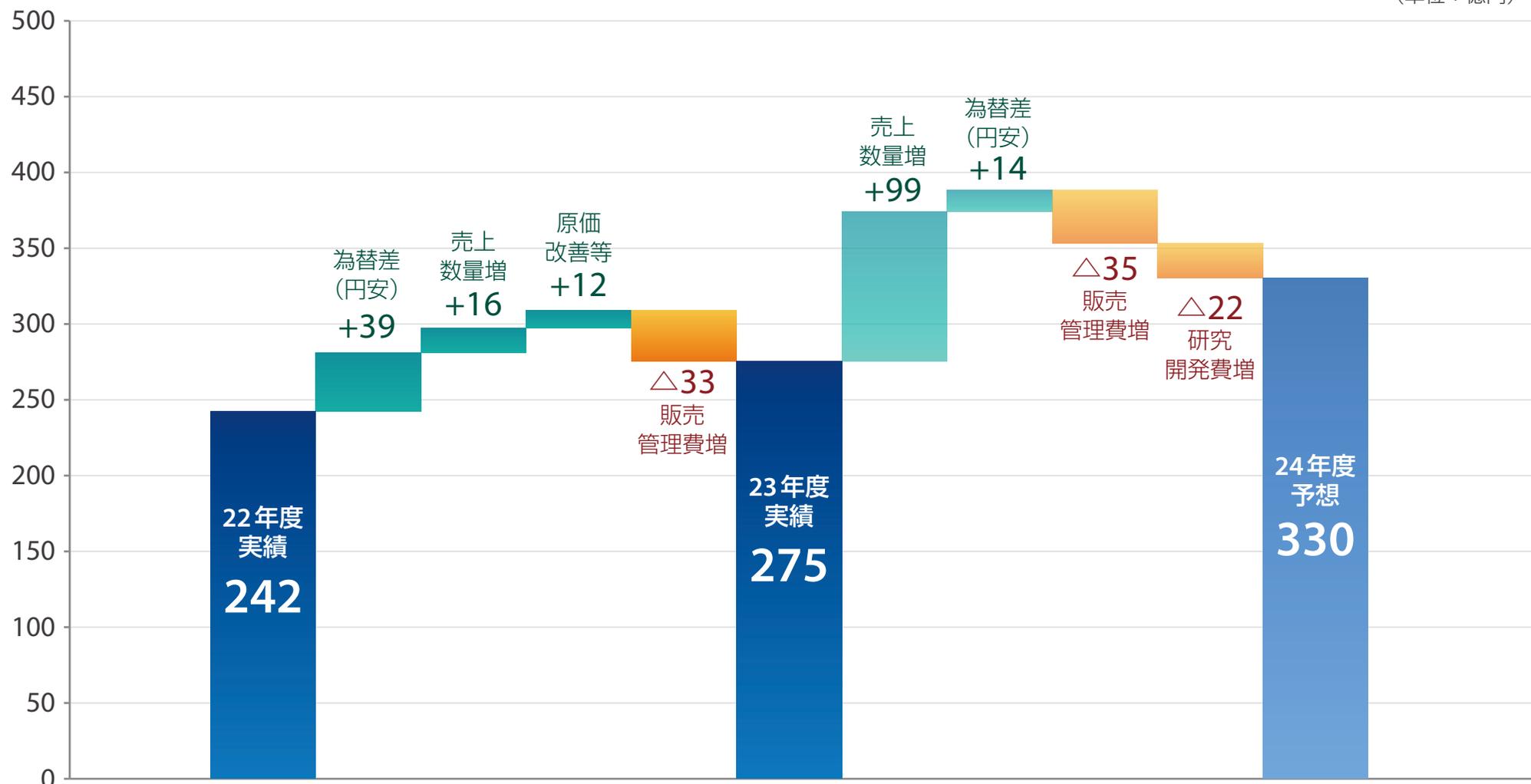
(単位: 億円)

(A) プラス要因	112
1. 売上数量増	99
2. 為替差 (円安)	14
(B) マイナス要因	△57
1. 販売管理費増	△35
2. 研究開発費増	△22
(A)+(B)	55

# 利益の増減要因

## 営業利益増減分析

(単位：億円)



## 事業セグメント別連結売上高・営業利益の推移（通期）

（単位：億円）

		22年度 通期実績	23年度 通期実績	24年度 通期予想 (2024年5月時点)	24年度 通期予想 (2024年11月時点)
全社	売上高	1,627	1,743	1,830	1,960
	営業利益	242	275	300	330
	経常利益	235	300	305	315
	当期純利益	178	217	225	235
理科学・計測機器事業	売上高	948	1,200	1,176	1,278
	営業利益	58	168	168	161
産業機器事業	売上高	495	390	497	530
	営業利益	233	162	189	228
医用機器事業	売上高	184	153	157	152
	営業利益	5	5	5	5
全社	費用	54	60	62	63
為替レート(1\$=)		¥ 135	¥ 144	¥ 145	¥ 147
為替レート(1€=)		¥ 141	¥ 157	¥ 158	¥ 161

# 主要勘定の推移

## 第2四半期

(単位：億円)

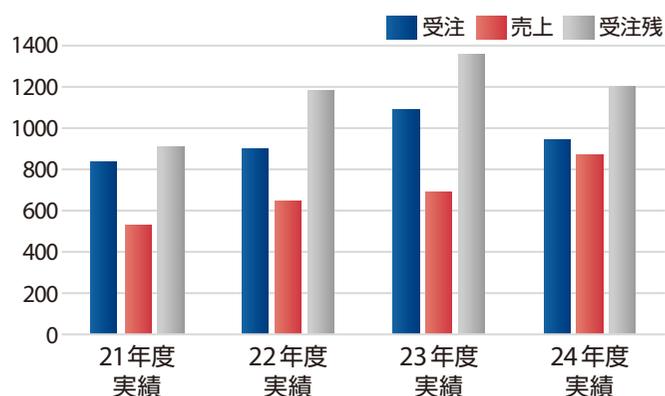
(連結)	22年度 2Q実績	23年度 2Q実績	24年度 2Q実績
1 在庫	706	821	822
2 有利子負債	140	90	108
3 純資産 (自己資本比率)	927 (49.0%)	1,094 (53.4%)	1,316 (57.3%)
4 配当金 (円)	30円	33円	44円
5 海外売上比率	75.4%	66.7%	76.4%
6 受注	899	1,092	941
7 受注残	1,187	1,361	1,203

## 通期

(単位：億円)

(連結)	22年度 通期実績	23年度 通期実績	24年度 通期予想
1 在庫	688	768	740
2 有利子負債	115	145	91
3 総資産	1,993	2,302	2,170
4 純資産 (自己資本比率)	1,019 (51%)	1,255 (55%)	1,420 (65%)
5 配当金 (円)	66円	102円*	92円
6 設備投資	37	56	50
7 減価償却費	47	47	50
8 受注	1,647	1,922	1,830
9 受注残	956	1,135	1,005
10 海外売上比率	70.7%	65.4%	70.0%

第2四半期連結受注 / 売上 / 受注残推移



\*創立75周年記念配当20円を含む

## 資本効率に係る指標

1 ROE	19.0%	19.1%	17.6%
2 ROIC	16.7%	15.9%	15.0%
3 PBR	2.1倍	2.6倍	—

## 事業環境

- 引き続き理科学・計測機器事業の受注は好調、先端半導体市況は調整継続

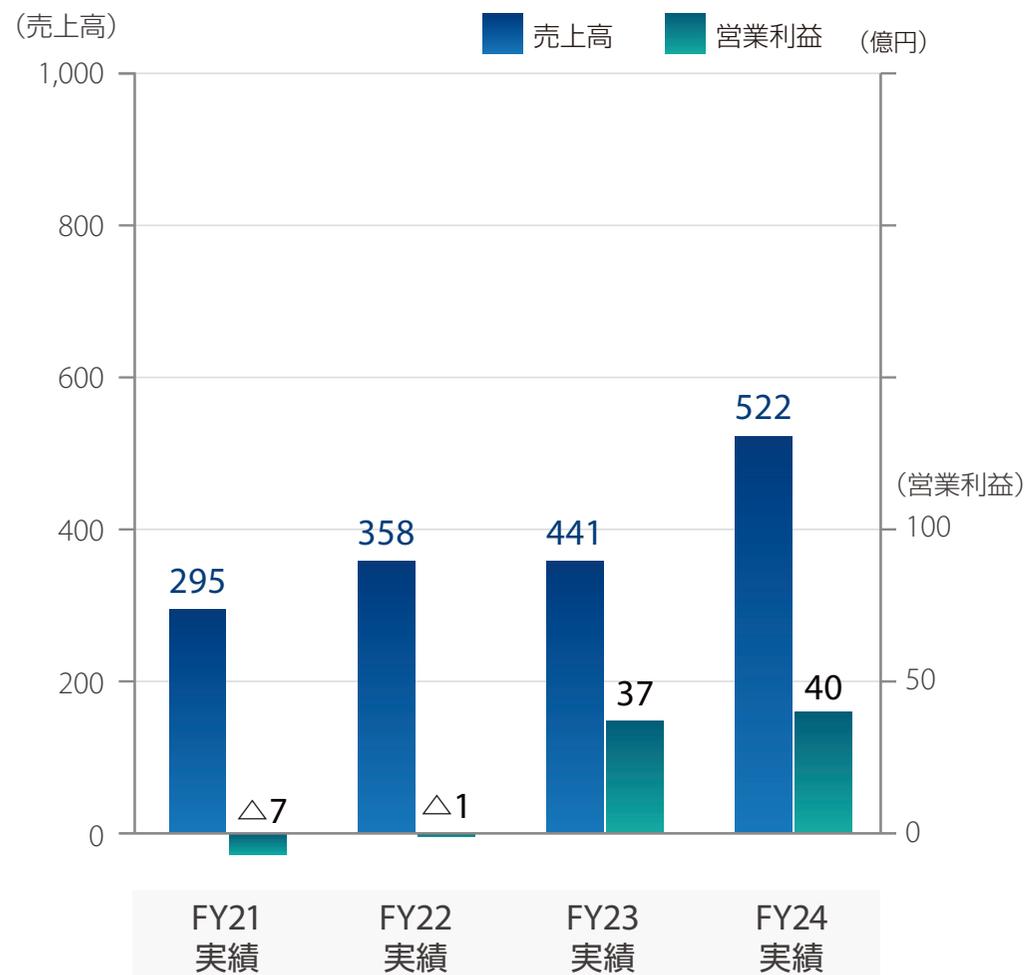
		概況	
理科学・ 計測機器事業	大学・官庁	○	■ 各国政府の科学技術投資は堅調、 但し、中国では低金利融資政策等の補正予算は一巡
	民需（半導体）	○	■ 引き続き韓国や台湾を中心に活況
	民需（他産業）	○	■ 電池市場は研究開発投資が継続
産業機器事業	描画装置市場	○	■ マルチビームマスク描画装置は設備投資の回復が遅れており、今後の本格的な回復に期待 ■ シングルビームマスク描画装置は中国を中心に旺盛な需要が継続 ■ スポットビームも好調
	電子銃市場	△	■ 電子銃市場は引き続き低調
医用機器事業	国内市場	○	■ 検査センターを中心に引き合いは堅調
	海外市場	△	■ 中国の国産優遇策等の影響により受注・売上が引き続き減少

## 2-1. 各事業の状況 理科学・計測機器事業

---

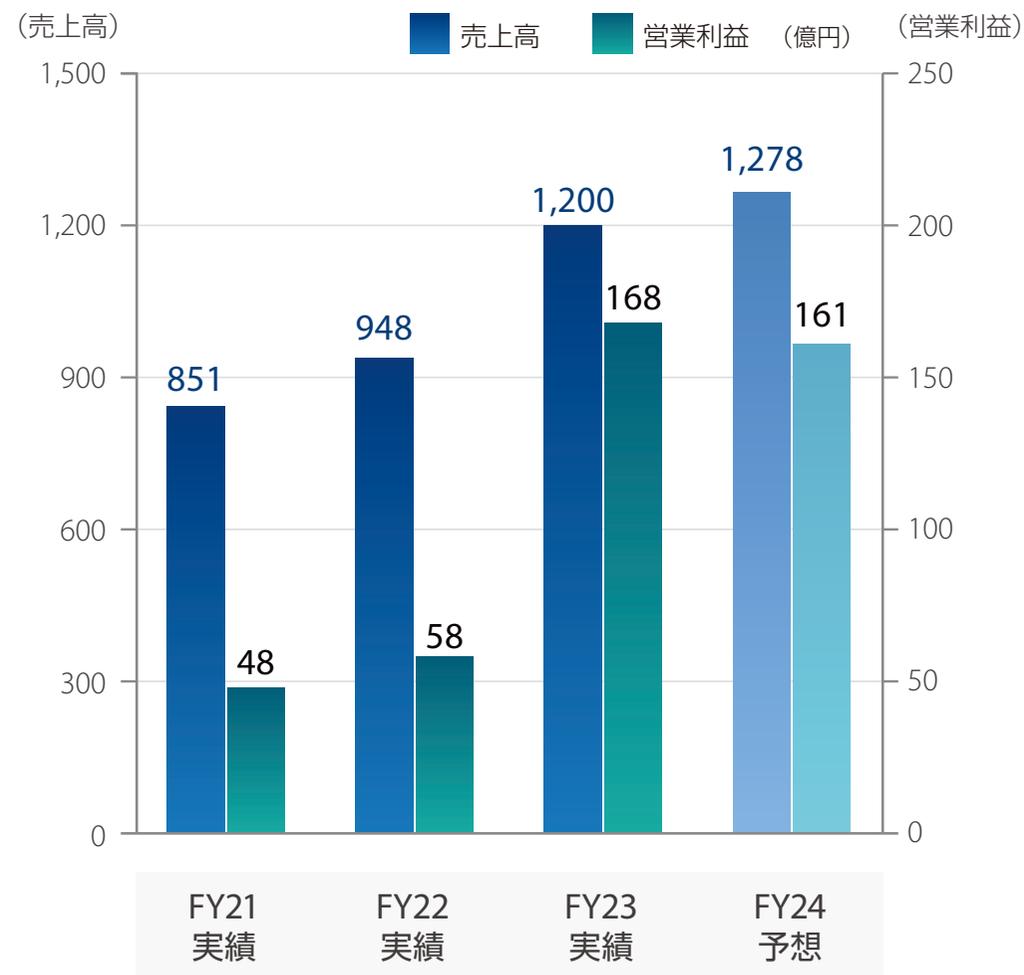
# 理科学・計測機器事業 売上高・営業利益の推移

## 第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 110	¥ 133	¥ 141	¥ 152
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 139	¥ 154	¥ 165

## 通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 113	¥ 135	¥ 144	¥ 147
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 141	¥ 157	¥ 161

# 理科学・計測機器事業

- 世界最高水準を誇る電子顕微鏡をはじめとする理科学・計測機器の更なる進化を通じた利益成長を目指す



# 半導体市場における当社の理学計測機器ソリューション

- 半導体はあらゆるモノの基盤技術
- 社会課題を解決する技術開発にはレガシー半導体から最先端半導体が必要

## 半導体技術

### 次世代半導体開発

- ・新構造トランジスタ開発
- ・新材料開発
- ・先端パッケージング技術開発

### 半導体の生産技術

- ・高歩留り安定化技術
- ・市場不良率低減技術
- ・故障・不良メカニズムの解明

## JEOLが提供するソリューション

### 半導体構造測定 …製造条件最適化

- ・FIBによる極薄膜TEM試料作製と膜厚測長、形状観察のハイスループット化および自動化



JIB-PS500i



JEM-ACE200F

### 歩留り・信頼性改善に向けた解析

- ・TEMによる不良試料の形状観察・膜厚測定、組成分析(EDS)、結合状態計測(EELS)、極微量分析、ダメージレス計測、高分解能観察(界面、粒界)
- ・SEMによる不良試料の観察と分析、不良箇所特定



NEOARM

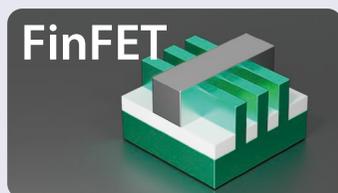


JSM-IT810

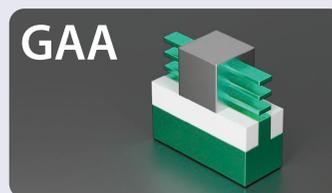
### 材料の電子状態計測

- ・材料のバンドギャップ・欠陥準位・結合状態測定

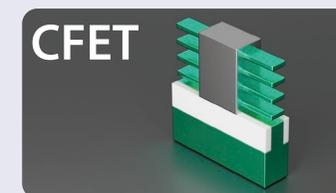
半導体微細化と積層化の進歩により高度な解析装置のニーズが高まる



FinFET



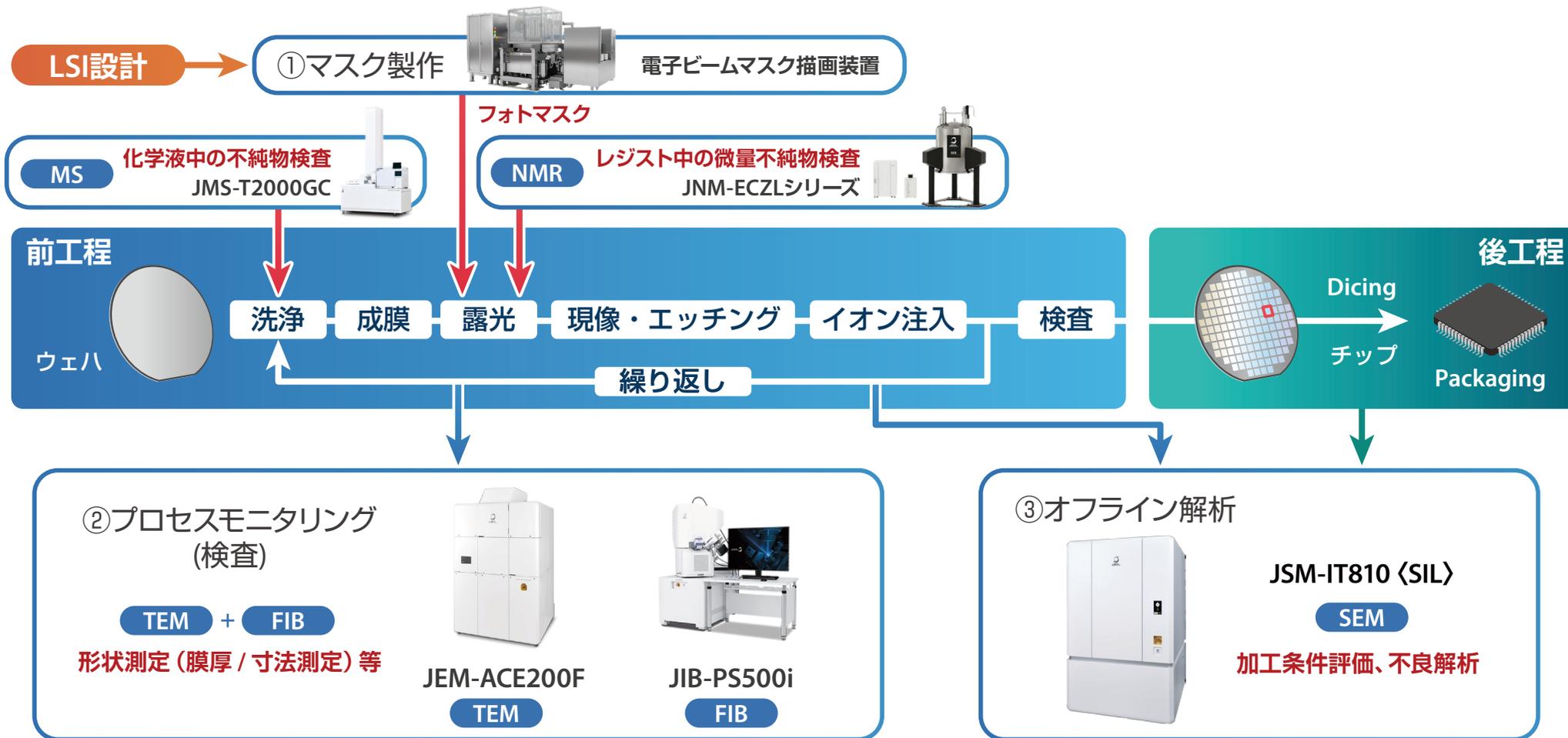
GAA



CFET

# 半導体生産プロセスにおける当社製品ソリューション

## 集積回路製造工程におけるJEOLの成長機会①②③



### 先端半導体プロセス、デバイス開発

TEM    FIB    SEM  
AES    NMR

- 新構造開発: 新トランジスタ形状の開発、加工条件の導出、応力の分布、欠陥の有無
- 膜材料開発: 膜質、膜厚、プロセス条件の導出、欠陥準位の有無
- 多層配線開発: 材料開発、コンタクトホールなど構造

# JEOL-Taiwan Advanced Semiconductor Solution Center (JTASC) を設立

- 台湾地域における半導体産業の更なる発展に寄与すべく、より充実したトータルソリューションをご提供することを目的とし、台湾新竹県竹北市にJEOL-Taiwan Advanced Semiconductor Solution Center (JTASC)を設立



代表取締役社長兼CEO 大井 泉 於JTASC Opening Ceremony



**JEM-ACE200F**  
High Throughput Analytical  
Electron Microscope



**JIB-PS500i**  
FIB-SEM System

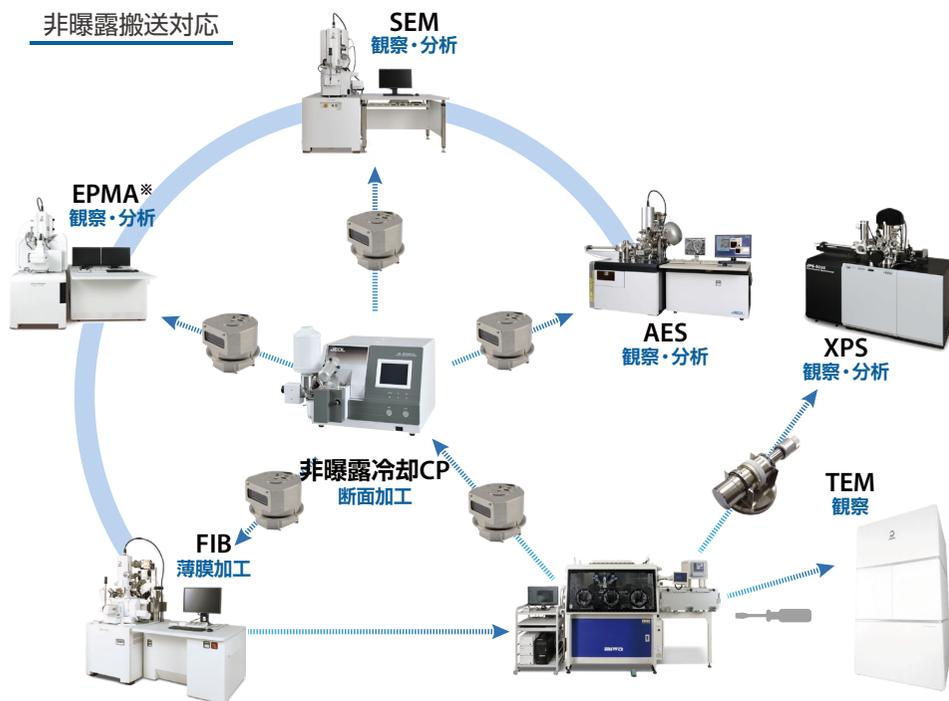
# 電池市場における当社の理科学計測機器ソリューション

- 電池はリチウムや硫黄が含有しており、材料変質を抑えるために非曝露下で試料を取り扱う必要があるが、当社の製品では観察・分析装置と加工装置も含めて非曝露での搬送に対応
- 次世代電池の研究開発に加えて、生産環境由来の汚染物質管理が求められており、検査装置として走査電子顕微鏡 (SEM) を用いたParticle Contamination Inspection (PCI) システムのニーズも増加
- 旺盛な需要が継続

## 次世代電池向けYOKOGUSHI解析ソリューション

- 電池材料は材料変質を抑えるため大気非曝露下での取り扱いが求められるが、当社の観察・分析装置や試料加工装置間の非曝露搬送が可能

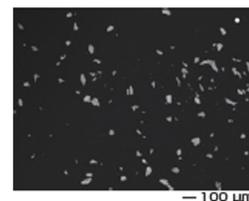
非曝露搬送対応



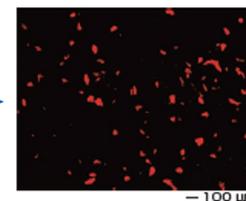
## 車載電池製造ライン向け環境検査システム

- 車載用LIBは、生産環境由来の汚染物質管理が求められており、走査電子顕微鏡 (SEM) のParticle Contamination Inspection システムのニーズが増加

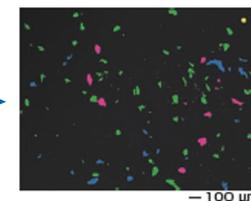
取得した画像



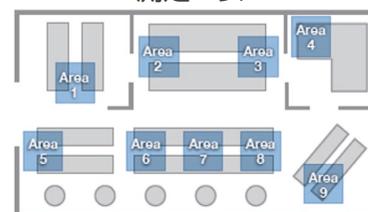
粒子抽出



粒子抽出の元素分析結果



測定エリア



カレンダーに反映した例

DATE	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	...
Area 1	388	452	346	398	954	686	330	284	152	
Area 2	103	122	118	154	328	292	210	162	115	
Area 3	111	114	131	111	282	227	187	118	125	
Area 4	137	125	195	128	134	143	180	127	103	
Area 5	109	130	112	72	142	137	97	124	107	
イベント					Area 1で清掃					

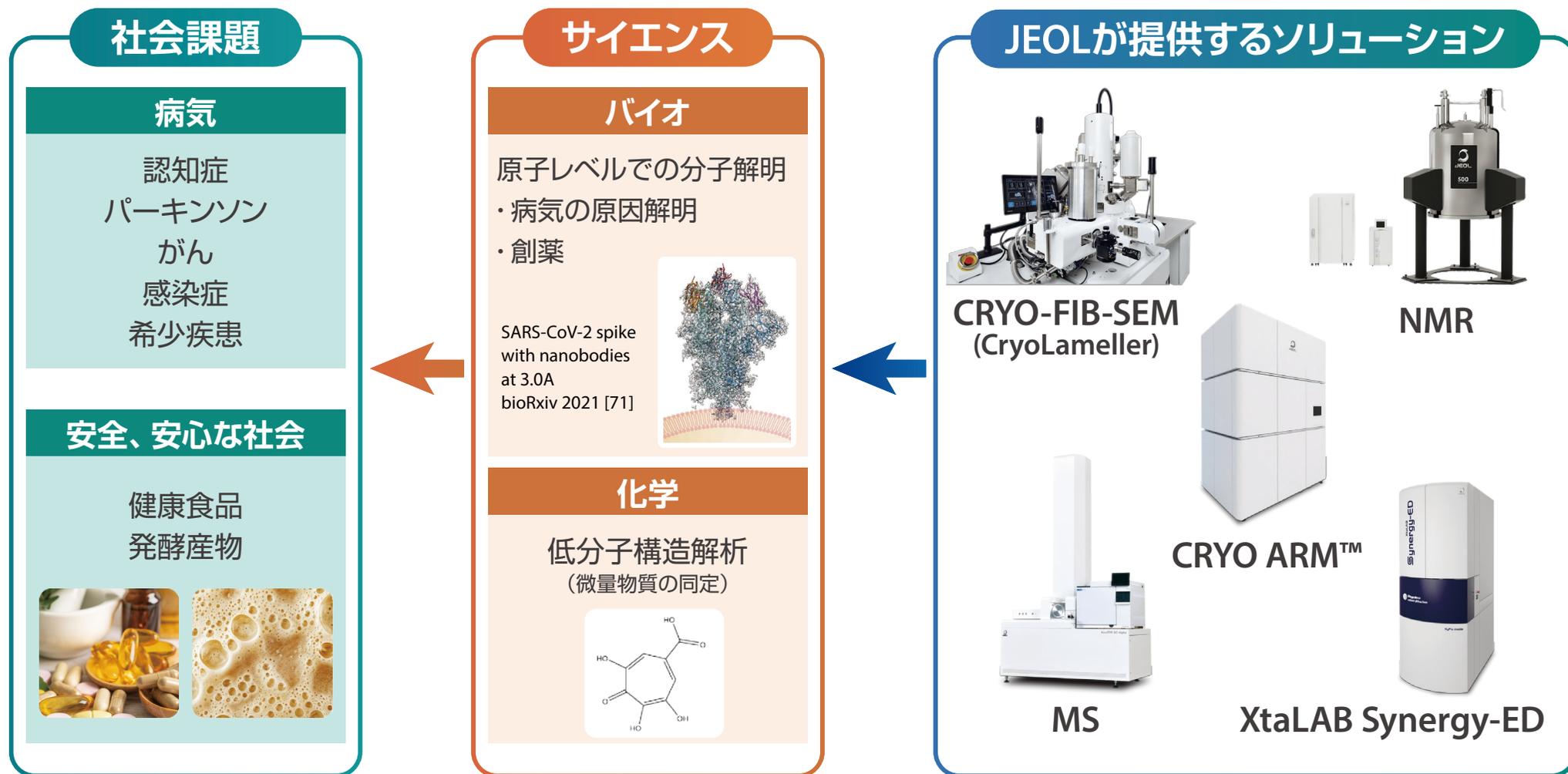
Illig value ■ X ≥ 500 ■ 200 ≤ X < 500 ■ X < 200

※EPMAはElectron Probe Micro Analyzerの略です

# ライフサイエンス市場におけるJEOL製品のソリューション展開

- 社会課題を解決する構造生物学（原子レベルで分子を見る）向けに製品やソリューション開発を進める

## 課題解決へのJEOLのアプローチ



# ライフサイエンス市場におけるJEOLの成長機会

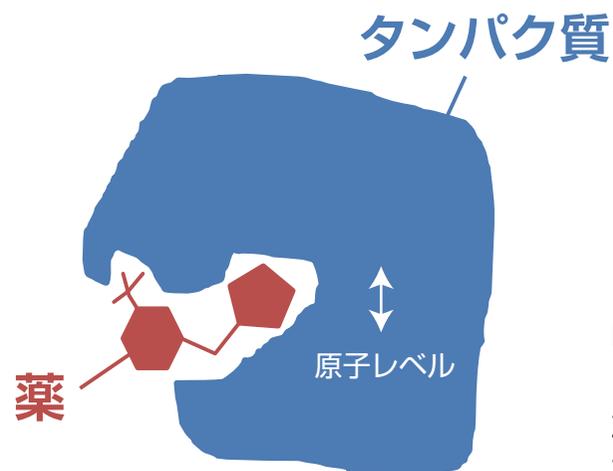
- 原子レベルでのタンパク質の分析にはクライオ電子顕微鏡 (TEM) と核磁気共鳴装置 (NMR) が必要不可欠

## 薬が鍵、タンパク質は鍵穴

1990年以前の古典的な創薬は

### 化学が中心

Nobel Prize  
1915 X-ray crystallography  
1952 NMR Signal



現在の創薬は

### 構造生物学を活用

Nobel Prize  
1962 Protein X-Rays  
2002 NMR of Biomacromolecules, MS of proteins  
2017 Cryo-electron microscopy of biopolymers

# ジャパン スーパーコンダクタ テクノロジー株式会社の株式の取得 (子会社化)

- ジャパン スーパーコンダクタ テクノロジー株式会社 (以下、JASTEC) の株式のすべてを取得し、子会社化することで株式会社神戸製鋼所と合意
- JASTECは、設立以来、超電導線材及び超電導マグネットの製造及び販売を手掛けており、当社の理科学計測機器事業の主要製品のひとつである核磁気共鳴装置 (NMR : Nuclear Magnetic Resonance) の主要な構成部品である超電導マグネットの重要なサプライヤー
- 同社を子会社化することにより、開発・生産体制や製品競争力の強化をさらに進める
- 株式譲渡実行日 : 2025年1月初旬 (予定)

## JASTECの概要

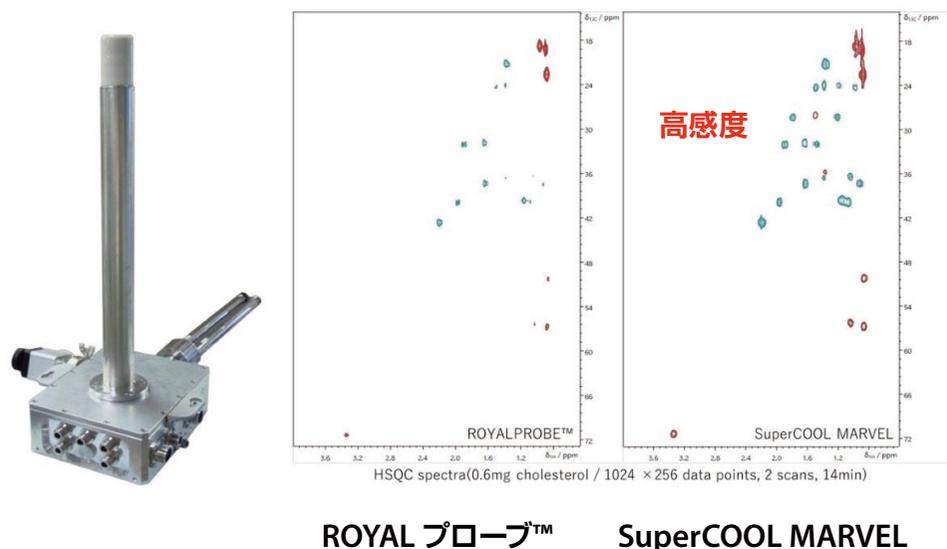


名称	ジャパン スーパーコンダクタ テクノロジー株式会社
所在地	兵庫県神戸市西区高塚台1-5-5
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 穴井 孝弘
事業内容	超電導線材及び超電導マグネットの製造及び販売
資本金	4億円 (2024年3月31日現在)
設立年月日	2002年4月1日
大株主及び持分比率	株式会社神戸製鋼所 85.1% 日本電子株式会社 14.9%
売上高	41億円 (2023年3月期)



# 新製品「SuperCOOL MARVEL」高感度冷却プローブ（NMR用プローブ）（2024年7月発売開始）

- 分解・変質の早いサンプルや、入手困難な微量サンプルの測定に大きな力を発揮
- 従来のNMR（当社製ROYALプローブ™）の感度と比べて、2倍以上の感度向上を実現



ROYAL プローブ™

SuperCOOL MARVEL

- SuperCOOL MARVELは、2013年に販売を開始したSuperCOOLプローブシリーズの第四世代のプローブ
- SuperCOOL MARVELは、多核対応型プローブで、<sup>1</sup>H、<sup>13</sup>Cといった基本的な核に加え、<sup>19</sup>Fや<sup>31</sup>Pなどの核種の測定も可能

## SupreCOOL MARVELの特長

### 1. 高感度

- 弊社の代表的なROYALプローブ™の感度と比べて、2倍以上の感度向上に成功
- NMRは、感度が2倍になると、同じ信号強度を得るのに必要な積算回数が1/4に減少する。SuperCOOL MARVELは、従来よりも短時間で同等の結果が得られ、スループットが大幅に向上

対 ROYALプローブ™, 400~600MHzの例

核種	感度比	所要積算回数比
<sup>1</sup> H	約2倍	約1/4
<sup>19</sup> F	約2.1倍	約1/4
<sup>31</sup> P	約3.2倍	約1/10
<sup>13</sup> C	約2.6倍	約1/7

### 2. 開放型冷却システム

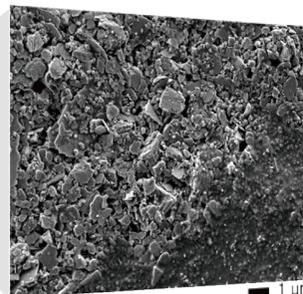
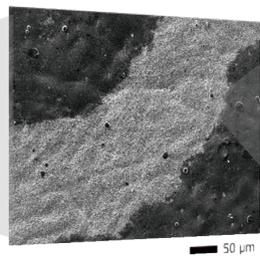
- 開放型冷却システムを採用し、液体窒素を利用して、プローブコイルやプリアンプを冷却
- 測定中の液体窒素の補充が可能で、冷媒補充による測定中断なく、シームレスな測定を実現

# 新製品「JSM-IT810」ショットキー電界放出形走査電子顕微鏡 (2024年7月発売開始)

- 電界放出形走査電子顕微鏡 (FE-SEM) は、研究機関、大学、産業界などの科学技術分野で幅広く活用されており、観察から分析まで簡単、正確、短時間で効率よく使用できる装置の需要が拡大
- JSM-IT810は、次世代型電子光学制御システム“Neo Engine”と、光学像とSEM像をシームレスにつなぐ“Zeromag”やEDSインテグレーションなどの高い操作性を実現する“SEM Center”に加え、自動観察・分析機能“Neo Action”や自動校正機能を追加し、更に操作性や生産性が向上
- セミインレンズを搭載したバージョンJSM-IT810〈SIL〉では、半導体デバイスの不良解析において不可欠な電位コントラスト観察や、傾斜試料や断面試料の高分解能観察などの半導体物理解析で優れた性能を発揮

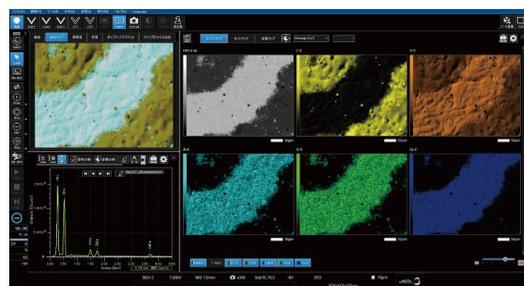
視野探しからレポート作成まで簡単に行うことが可能

①視野探し／観察

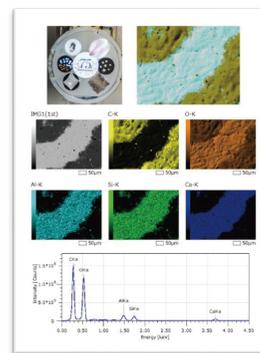


試料:名刺  
入射電圧: 2kV  
観察モード: STD  
検出器: SED

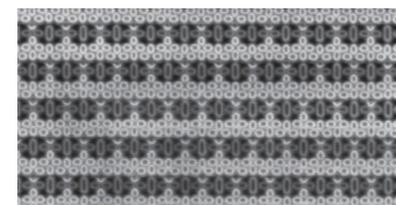
②元素分析



③レポート作成



JSM-IT810 〈SIL〉



試料:SRAM 情報:二次電子(電位コントラスト)



JSM-IT810

# 新製品「IB-19540CP/IB-19550CCP」クロスセクションポリッシャ™ (2024年9月発売開始)

- クロスセクションポリッシャ™ IB-19540CP/冷却クロスセクションポリッシャ™ IB-19550CCPは、電子顕微鏡用の新型断面試料作製装置として、複合材料や脆い試料に対して、機械的な歪みのない良好な断面を簡単に作製することが可能
- 新GUI採用とIoT化により操作が容易になり、加えてイオンビーム電流密度向上によりスループットが向上
- クロスセクションポリッシャ™ (CP)は、電子部品、セラミックス、金属、電池、高分子、ライフサイエンスなどの分野で幅広く活用

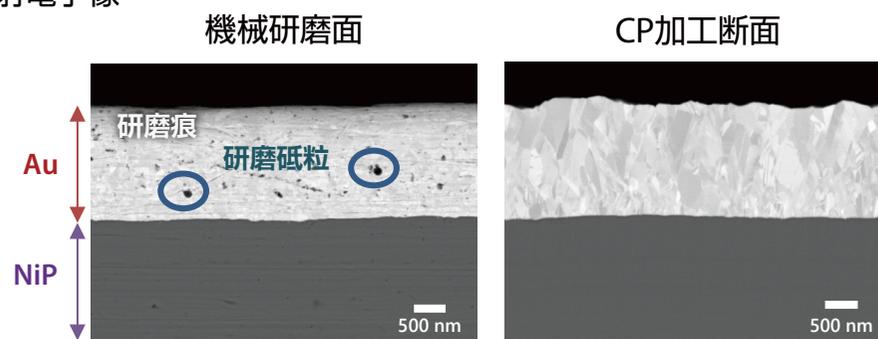


IB-19540CP

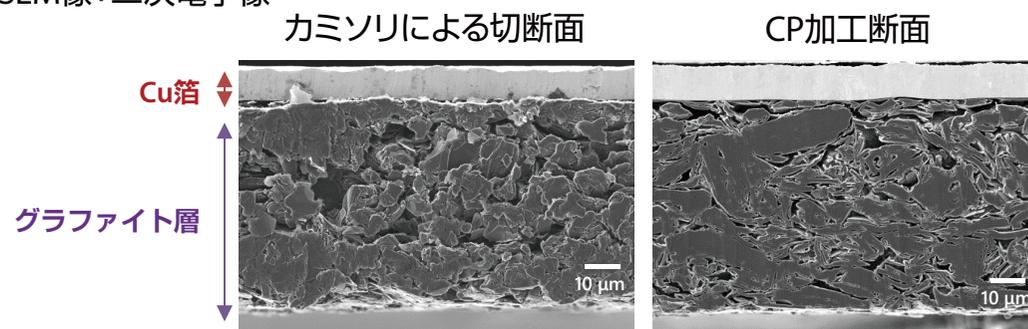


IB-19550CCP

試料：電子部品のAuめっき  
SEM像：反射電子像



試料：Liイオン電池 負極部  
SEM像：二次電子像

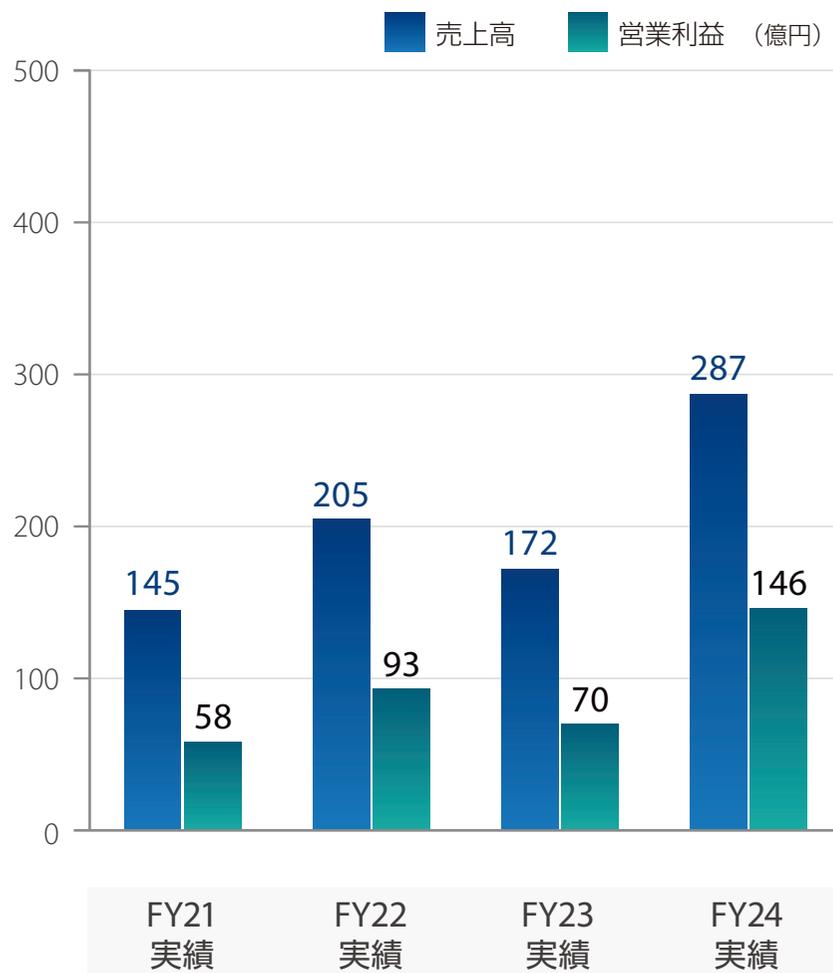


## 2-2. 各事業の状況 産業機器事業

---

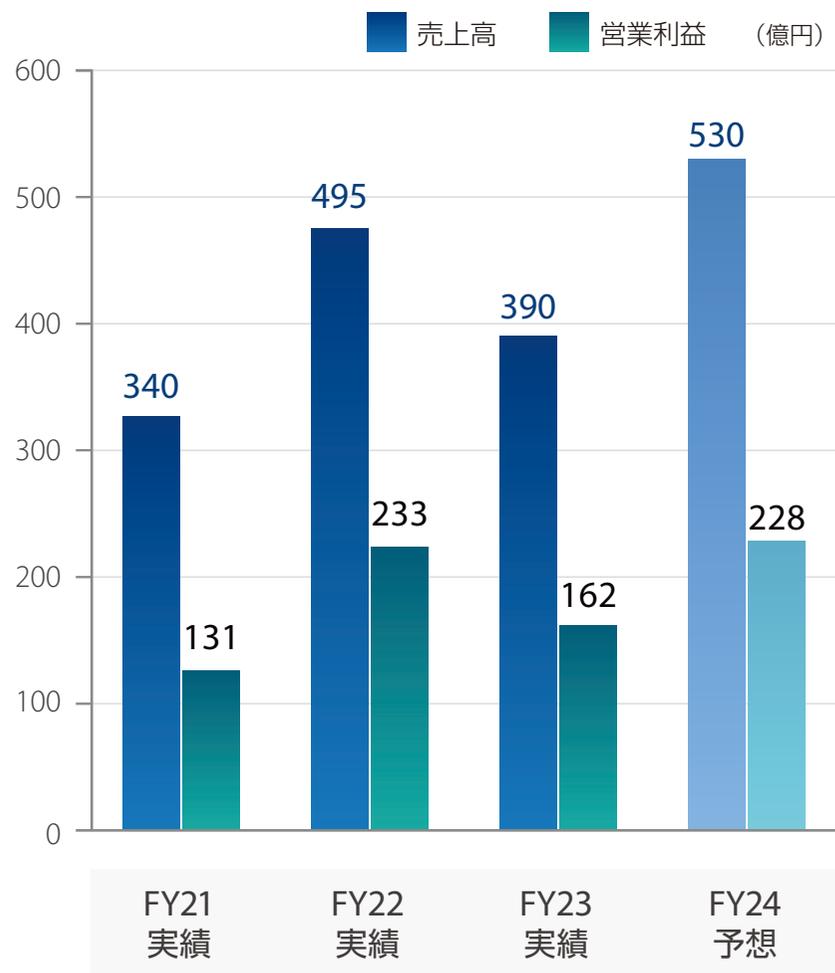
# 産業機器事業 売上高・営業利益の推移

## 第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 110	¥ 133	¥ 141	¥ 152
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 139	¥ 154	¥ 165

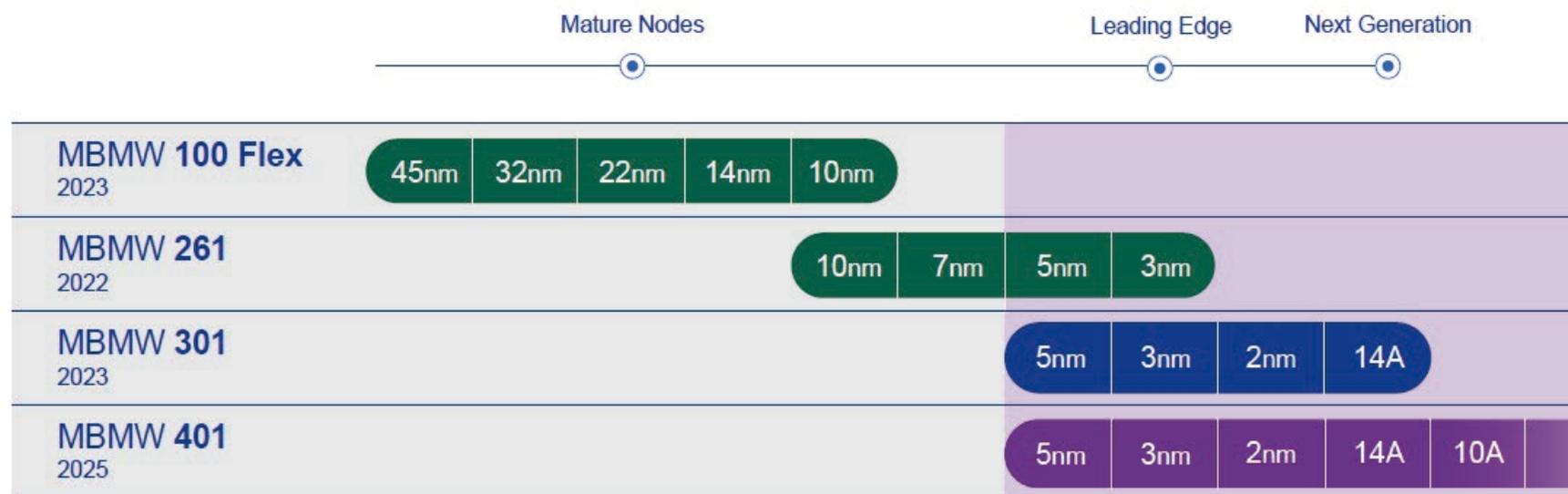
## 通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 113	¥ 135	¥ 144	¥ 147
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 141	¥ 157	¥ 161

# マルチビームマスク描画装置 開発ロードマップとMBMW-401

- 半導体デバイスの微細化に合わせて性能・機能を進化させ、競争優位性の維持強化を継続
- 成長機会：EUVレイヤー数の増加、自由曲線の描画ニーズの高まりによる一部DUVマスクへの適用



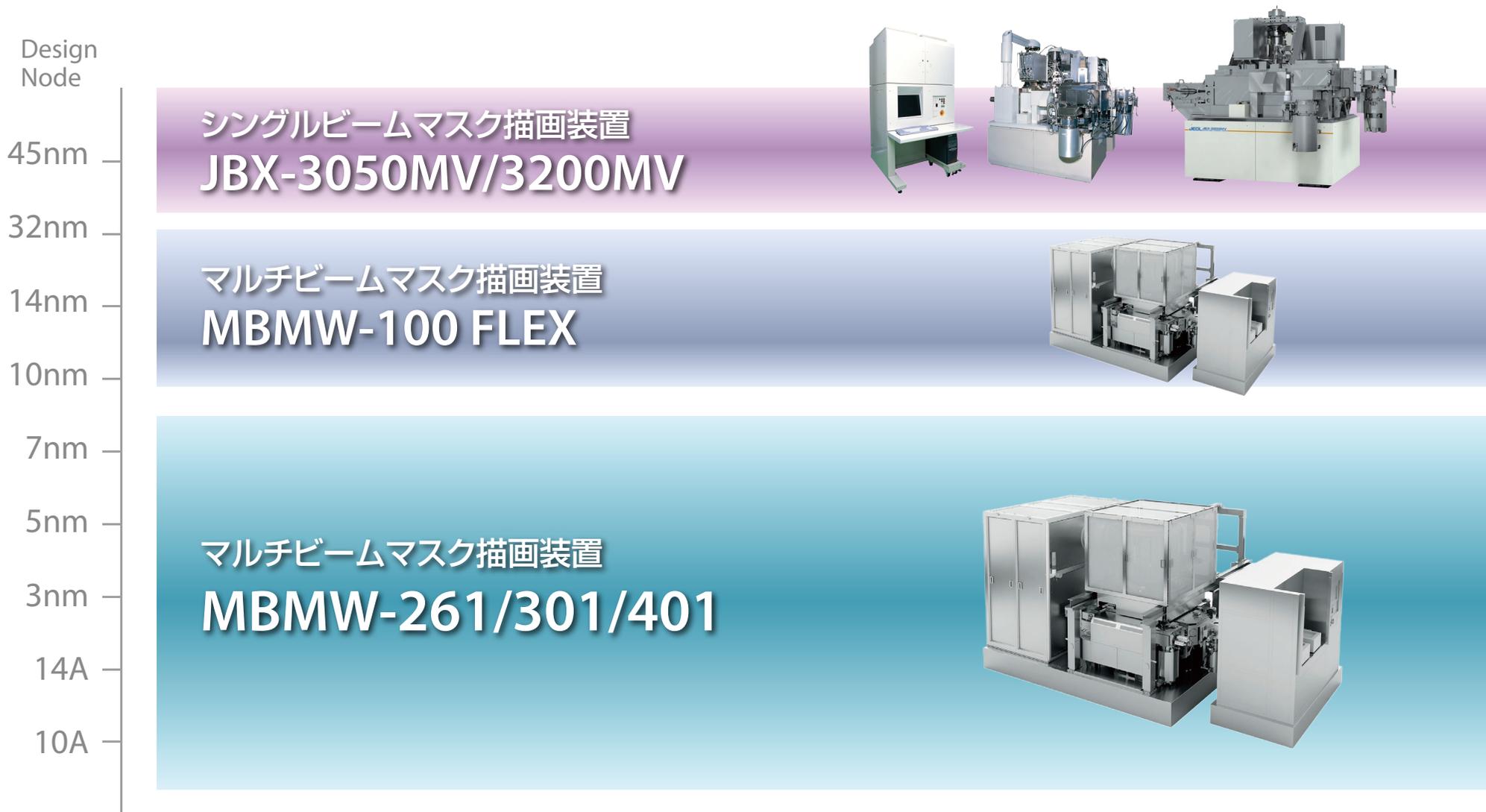
MBMW

# 401

- For 5nm down to 10A nodes
- <5 hours write time for full 5nm mask
- Automated beam size switching
- Cost of ownership reduction

# 電子ビームマスク描画装置

- レガシーノード向けシングルビームマスク描画装置は、中国を中心に引き続き堅調
- マルチビームマスク描画装置とシングルビーム描画装置により先端ノードからレガシーノードの領域のマスク製造をサポート



## スポット型電子ビーム描画装置

- データセンターでは強度変調方式の光トランシーバが広く用いられており、単一波長で高出力な光源としてDFBレーザーチップが多く搭載されており、DFB増産によりスポットビームの需要が増加傾向



**JBX-8100FS**

電子ビーム描画装置



**JBX-A9**

電子ビーム描画装置

# 産業機器事業：電子ビーム金属3Dプリンター

- 各拠点（日本、米国、ドイツ）を中心に販売促進活動を継続中
- 国内外からの引き合い増加

## 電子ビーム金属3Dプリンターの優位性

### 積上げによる大量造形

予熱機能により割れや変形が抑制でき、高さ方向に積上げた大量造形が可能

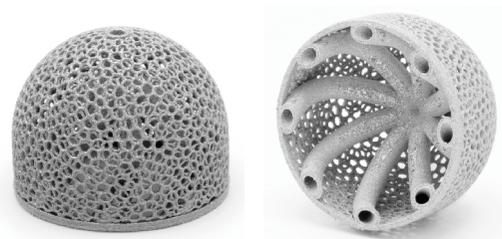


材料：Ti64  
造形物：ヒップカップ（人工股関節）

### 高融点金属の造形

高い熱エネルギーに加え、高性能の熱シールドにより大型のタングステン造形が可能

融点 3,420°C / Φ65mm×55mm(H)



材料：タングステン  
造形物：放射線シールド用熱交換部品

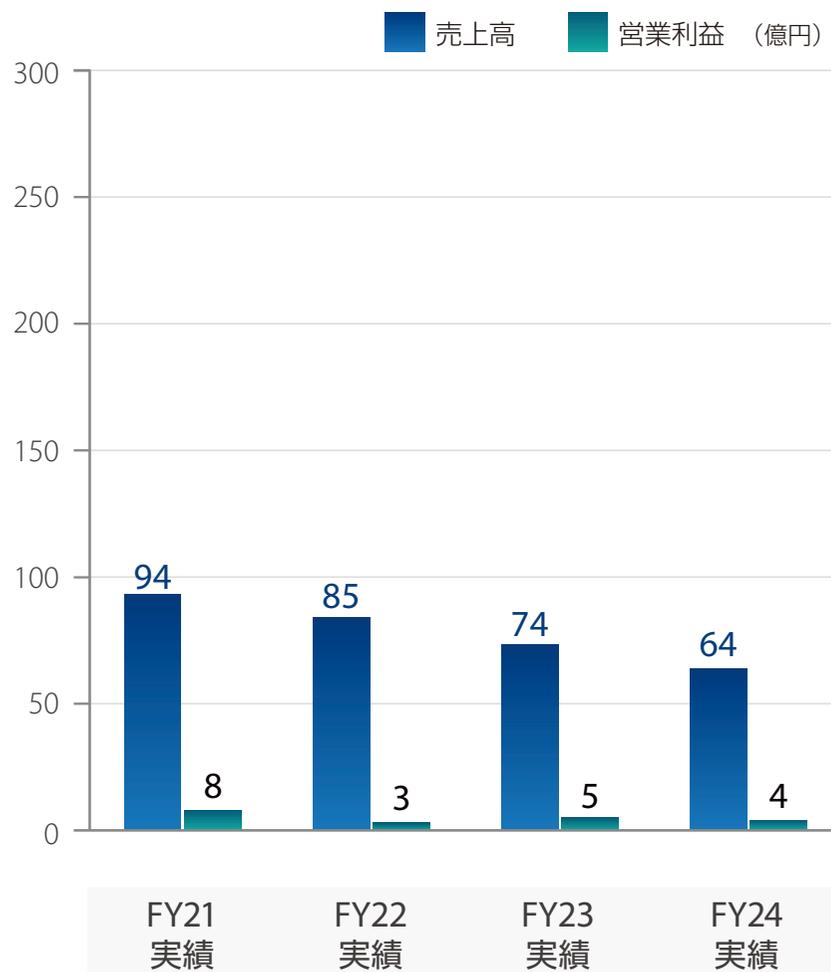


## 2-3. 各事業の状況 医用機器事業

---

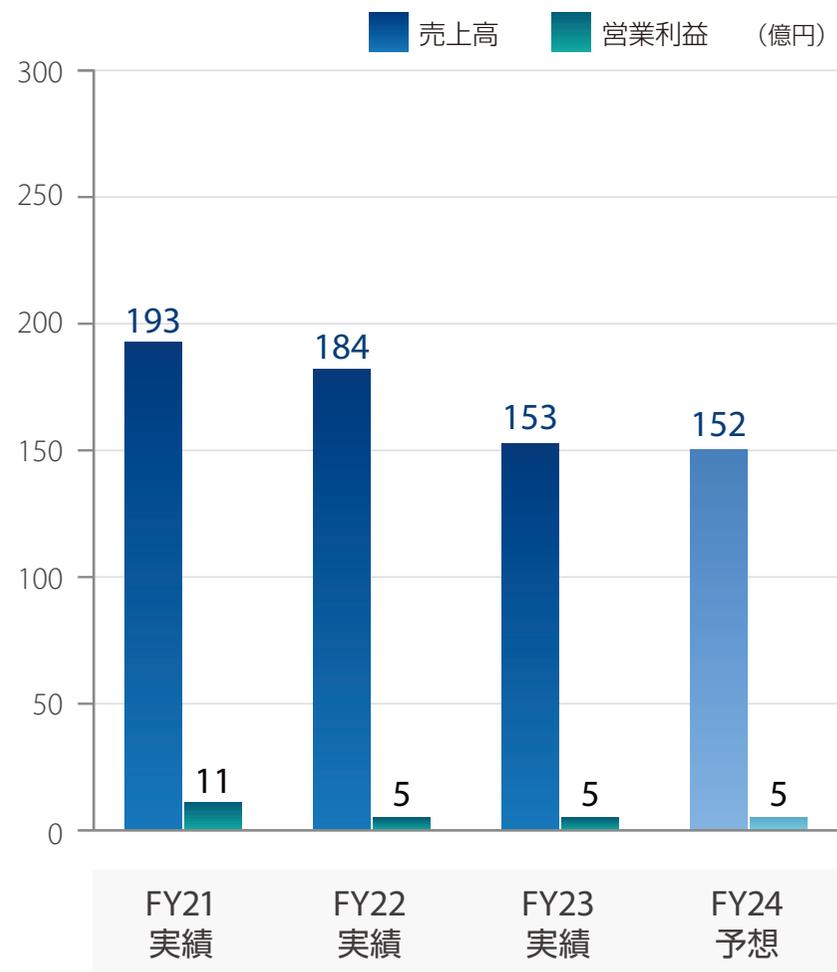
# 医用機器事業 売上高・営業利益の推移

## 第2四半期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 110	¥ 133	¥ 141	¥ 152
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 139	¥ 154	¥ 165

## 通期業績推移



為替レート(1\$=)	¥ 113	¥ 135	¥ 144	¥ 147
為替レート(1€=)	¥ 131	¥ 141	¥ 157	¥ 161

## 医用機器事業：生化学自動分析装置

- 国内検査センターを中心に引き合い受注が好調
- 競争力のある製品の供給により、海外販売戦略の再構築を目指す



### JCA-BM6010 G

生化学自動分析装置  
*BioMajesty™*



### JCA-ZS050

生化学自動分析装置  
*BioMajesty™ ZERO*



### JCA-BM8000 series (BioMajesty\* 8000 GX)

生化学自動分析装置  
*BioMajesty™*

\*「BioMajesty」は日本電子株式会社の登録商標です。

JEOL 装置の特長

**検体・試薬が微量 / ハイスループット**

### 3. まとめ

---

# 世界の科学技術を支えるニッチトップ企業へ

▶ YOKOGUSHI ◀

## 経営理念

日本電子は「創造と開発」を基本とし常に世界最高の技術に挑戦し製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献します

▶ YOKOGUSHI ◀

## ビジョン

### 「70年目の転進」

創業以来培ってきた独自の技術と人脈を基に事業拡大を加速し更なる高収益化を実現します

## 中期経営計画

### 「Evolving Growth Plan」

研究開発力、ものづくり力、サービス力のUPにより顧客満足度の向上を図ります

▶ YOKOGUSHI ◀

共創によるイノベーションを推進

#### 資料取扱上のご注意

本プレゼンテーション資料及び弊社代表者が口頭にて提供する情報には、現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく記述が含まれています。

今後、経済情勢をはじめ半導体市況や研究開発投資など、弊社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が異なったものとなることが否定できないことを、ご承知置き願います。

© 2024 JEOL Ltd.